

## ぼくの妹

四年 徳増丈瑠

2年前の冬、妹の「小麦」が家族の一員になった。手にのるくらい小さい小さいティーカッププードルだ。小麦色で毛がふわふわでもかわいい。ぼくは、男兄弟の一番下でいつもお兄ちゃんたちとけんかして家で中うるさい。そんな中、母は「静かにして。」とぼくら兄弟に言いながら自分は、SNSでかわいい犬を見ていた。そして、そこで「小麦」を見つけた。すぐにお兄ちゃんたちに写真を見せると、「特別にかわいい」と家族が言った。そしてなんと一番上のお兄ちゃんとたん生日が同じだった。家族全員が「小麦」に決めて、こうべにむかえにいった。

初めて会った時、不思議と、自分がちゃんと育ててあげる自信を感じた。ブリーダーさんからの注意事項は、トイレの場所としつけを覚えさせることだった。今でもしつぱいすることがよくあり、トイレトレーニングは特にむずかしい。ぼくの「小麦」は、ちょっと頭が悪いかもしれない。お母さんたちは、トイレトレーニングが失ばいすると、よくおこっているが、ぼくは、あまりおこらない。さらわれたくないからだ。だけど、反対になめられているところもある。「どうだ。」と言わんばかりにぼくのことを下に見ている。自分のほうが小さいくせに。

そんな小麦は、一さいの時に、しゅじゅつをした。その時は、ずっとはいていて、とても苦しそうだった。一緒に病院にいけなかったけど心配でどうなってしまうのかとふ安だった。「小麦」が帰ってきた時、ますいを打っていたから、ぐったりしていた。ぼくが名前をよんでも、全ぜん反応しなかった。とてもかわいそうだった。

この夏休みに、ぼくもひどいかぜをひいてしまった。その時は、苦しくて、とてもつらかった。特に一人になるのがいやだった。さびしくて、こわかった。そんな時、「小麦」が、近くにいてくれて、とてもうれしかった。「小麦」がこの家に来てくれて本当によかった。「小麦」にもぼくの気持ちがあったと思う。

ぼくがしてあげていることは、ブラッシングとしつげだ。ブラッシングは、ノミやダニを発見して、ひふと毛のけんこうをチェックする大事な仕事だ。しつげでは、おて、おかわり、ふせなどを教えている。この仕事は、小麦のためにずっと続けてあげたいと思った。

これからも「小麦」にもっと楽しいことをたいけんさせてあげたい。いっぱい遊んで、いろんな所に連れてってあげたい。「小麦」はぼくの妹だから。